

平成12年4月24日

麦の赤かび病の発生状況及びイネミズゾウムシの本田発生最盛期の予測に関する情報の送付について

1 麦の赤かび病

去年は、感染時期に降雨日数が多かったものの、平均気温が15度を下回っていたため、平年に比べ発生はやや少ない状況でした。

本年度は、4月の降水量は平年に比べてやや少なく、平均気温も平年並で推移しているため、胞子の飛散は少ない状況でした。

大麦については、出穂から2週間程過ぎており、現在赤かび病の発生も見られないことから平年並の発生と予想されます。

一方小麦については、出穂から1週間～10日程経過しており、4月18日から平均気温が15度を超え、胞子の飛散も多くなったことから、天候によっては赤かび病の感染及び発病が多くなる可能性があります。

以上のことから、17日以降に出穂した小麦については、天候に注意され赤かび病予防のため薬剤散布等の防除指導をお願いします。

なお、赤かび病の主な感染時期は開花～乳熟期（開花から10日間）ですが、雨天、曇天が続き、比較的高温（20～27度）になると激発します。

2 イネミズゾウムシの本田侵入時期について

(1) 平均気温法での算定について

イネミズゾウムシは、飛翔筋の発育零点が13.8度となっており、最高気温が13.8度を越えた日を起算日として、三角法で積算を行い91日度の日を発生最盛期となっていますが、簡易法として平均気温をもとに算出したものです。（算定法は長崎県総合農林試験場寺本氏他3名の長崎総農林試験報による。）

(2) 平年値（平均気温）による試算

地名	本田侵入盛期	発生最盛期	地名	本田侵入盛期	発生最盛期
熊本	4月24日	5月4日	八代	4月26日	5月7日
岱明	4月30日	5月12日	上	5月3日	5月16日
			本渡	4月29日	5月11日

- ① アメダスの平年値をもとに試算した平年の数値です。
- ② 本田侵入盛期とは、ほ場への成虫の侵入が最も多い時期です。この時期では畦畔付近と中心部では生息密度に大きな違いが見られます。密度調査を行う場合は、畦畔から3m付近（20m×50mのほ場）が平均的な発生程度となります。
- ③ 発生最盛期では、水田内の分布はほぼ均一化します。

（3）本年値（平均気温）による算定

地名	本田侵入盛期	発生最盛期	地名	本田侵入盛期	発生最盛期
熊本	4月22日	5月2日	八代	4月25日	5月5日
岱明	4月28日	5月10日	上	5月2日	5月14日
阿蘇乙姫	5月23日	6月4日	本渡	4月29日	5月10日

※1 4月22日までは今年の実測値で以降は平年値で計算していますが、平均気温が1度上がるごとに約4日時期が早まります。

※2 本田侵入盛期は、最高気温が15℃を恒常的に越えた日を起算日として、発生最盛期の80%相当日で算出しています。

（4）表の見方について

表の月日は、平均気温から積算したもので実際は、ほ場の田植時期により侵入時期は変化します。

- ① 田植えが、気温による予想発生最盛期前後に行われると、そのほ場の実際の発生ピークは移植後2～3週間後となります。
- ② 田植が、予想発生最盛期以前に行われると、そのほ場の発生ピークは予想と一致します。
- ③ 平坦部の普通期の水稲のように予想発生最盛期からかなりの期間を開けて田植えされると、早期等で既に産卵が終了しているので、成虫の侵入はほとんどなく被害は出ません。

(5) 現在の発生状況について

4月19日の天草地域における早期水稻の巡回調査結果では、松島、有明のほ場では成虫及び被害の発生は認められませんでした。河浦町久留、本渡市櫛宇土では成虫を確認しましたが、畦畔からほぼ2～3列までの発生が多く、現在のところ密度は平年並と思われました。また、成虫が確認されたほ場においても、食害はほとんど見られませんでした。

今後の気温の上昇により、ほ場への侵入が多くなると思われま

(6) 防除について

本田期の防除適期は、本田飛来最盛期となります。

なお、県のイネミズゾウムシの要防除水準は田植後0.5頭/株(5%減収)としています。